

第 1 回久慈川河川整備計画行政連絡会議

1. 開会

○常陸河川国道事務所 副所長

皆様、本日は、大変お忙しい中、ご出席を賜り、大変ありがとうございます。

定刻より少し早いのですが、皆様お集まりですので、ただいまより久慈川河川整備計画行政連絡会議を開催させていただきます。

私は、本日の進行を務めさせていただきます、常陸河川国道事務所副所長の宮崎でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それではまず、お手元に配付しております資料のご確認をさせていただきます。

最初に資料目録、議事次第、名簿、座席表、資料が 1 から 3 ですが、資料－ 1 久慈川河川整備計画関係県会議規約（案）、資料－ 2 久慈川の現状と課題、資料－ 3 当面の進め方、参考資料－ 1 河川法（抜粋）、参考資料－ 2 久慈川水系河川整備基本方針。

以上でございます。配付漏れ等ございましたら、お知らせいただきたいと思います。

よろしいでしょうか。

（「なし」の声あり）

2. 規約について

○常陸河川国道事務所 副所長

それでは、最初に、本会議の規約につきましてお諮りさせていただきます。

それでは、説明をお願いします。

○常陸河川国道事務所 調査第一課長

皆様にお配りしております資料－ 1 をご覧いただきたいと思います。

読み上げさせていただきます。

久慈川河川整備計画行政連絡会議規約。

（名称）

第1条 本会は、「久慈川河川整備計画行政連絡会議」（以下「会議」という。）と称する。

（目的）

第2条 会議は、久慈川水系河川整備計画（以下「河川整備計画」という。）の策定主体である。国土交通省関東地方整備局長が、河川法第16条の2第5項に基づく関係県知事の意見聴取に先立ち、関東地方整備局と関係県市村において、相互の立場を理解しつつ河川整備計画に係る検討内容の認識を深めることを目的とする。

（組織）

第3条 会議は、別紙で構成される。

- 2 関東地方整備局は、会議を招集し議題の提案を行うとともに、河川整備計画に係る検討内容の説明を行う。
- 3 関係県市村は、会議において関東地方整備局が示した内容に対する見解を述べる。
- 4 関係県市村は、会議の開催を関東地方整備局に要請することができる。

（情報公開）

第4条 会議は、原則として公開とし、会議の公開方法については会議で定める。

（事務局）

第5条 会議の事務局は、国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所に置く。

- 2 事務局は、会議の運営に関して必要な事務を処理する。

（規約の改定）

第6条 この規約を改定する必要があると認められるときは、会議で協議する。

（その他）

第7条 この規約に定めるもののほか、会議の運営に関し必要な事項は、会議で協議する。

以下、附則になっております。

○常陸河川国道事務所 副所長

ただいまありました久慈川河川整備計画行政連絡会議規約（案）についてご異議等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○常陸河川国道事務所 副所長

それでは、異議なしということで、規約につきましては原案どおりで、案をとらせていただきます。

また、情報公開についてですが、規約第4条で、公開方法については本会議で定めることとしております。

公開につきましては、一般および報道機関に本会場で傍聴していただこうと考えております。

また、会議で使用した資料につきましては、会議に諮らせていただき、会議終了後にホームページにアップさせていただこうと考えております。

情報公開の手法につきましてご異議等ございますでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○常陸河川国道事務所 副所長

それでは、ご了承いただいたということで、規約に沿って運営することといたします。

それでは、これから、報道機関・一般傍聴の皆様に入室いただきたいと思いますので、このまましばらくお待ちいただきたいと思います。

(報道機関・一般傍聴者入室)

○常陸河川国道事務所 副所長

皆様、本日は、大変お忙しい中、ご出席を賜り、まことにありがとうございます。

先ほど構成員の皆様と規約につきまして決めましたので、引き続き久慈川河川整備計画行政連絡会議の議事を進行したいと思います。

私は、本日の進行を務めさせていただきます、常陸河川国道事務所副所長の宮崎でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

記者発表の際に会議の公開をお知らせしておりますが、カメラ撮りは冒頭の挨拶までとさせていただきますので、報道機関の皆様、よろしくお願いいたします。

それでは、引き続きまして、本日のご出席者のご紹介をいたします。

茨城県土木部河川課長、横田様。

○茨城県土木部河川課長

よろしくお願いいたします。

○常陸河川国道事務所 副所長

日立市副市長、横山様。

○日立市副市長

よろしくお願いいたします。

○常陸河川国道事務所 副所長

常陸太田市副市長、宮田様。

○常陸太田市副市長

はい、宮田でございます。よろしくお願ひします。

○常陸河川国道事務所 副所長

常陸大宮市副市長、綿引様。本日は代理の出席で、経済建設部次長、大貫様。

○常陸大宮市副市長（代理）

大貫でございます。よろしくお願ひいたします。

○常陸河川国道事務所 副所長

那珂市副市長、宮本様。本日は代理の出席で建設部長、小泉様。

○那珂市副市長（代理）

小泉です。よろしくお願ひいたします。

○常陸河川国道事務所 副所長

東海村副村長、萩谷様。

○東海村副村長

萩谷でございます。よろしくお願いいたします。

○常陸河川国道事務所 副所長

続きまして関東地方整備局でございますが、河川調査官、高橋。

○河川調査官

高橋です。よろしくお願いいたします。

○常陸河川国道事務所 副所長

常陸河川国道河川事務所長、八尋。

○常陸河川国道事務所 所長

八尋でございます。よろしくお願いいたします。

○常陸河川国道事務所 副所長

常陸河川国道事務所調査第一課長、和田です。

○調査第一課長

和田と申します。よろしくお願いいたします。

○常陸河川国道事務所 副所長

最後になりますが、私、副所長の宮崎でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

取材および一般傍聴の皆様には、お配りしております取材または傍聴にあたっての注意事項に沿って、適切に取材および傍聴され、議事の進行にご協力いただきますようお願いいたします。

3. 挨拶

○常陸河川国道事務所 副所長

それでは、国土交通省関東地方整備局河川調査官、高橋よりご挨拶申し上げます。

○河川調査官

本日は、ご多忙の中、第1回久慈川河川整備計画行政連絡会議にご出席いただき、ありがとうございます。

この久慈川では、平成20年に久慈川水系河川整備基本方針が定められ、その後、今後20年から30年間の具体的な河川の整備内容を定める河川整備計画の策定に向けた検討を進めてきたところです。

国土交通省関東地方整備局では、河川法第16条の2第5項に基づく関係県知事の意見聴取に先立ち、河川整備計画の策定主体である関東地方整備局と関係県市村において、相互の立場を理解しつつ河川整備計画に係る検討内容の認識を深めるために、新たに「久慈川河川整備計画行政連絡会議」を設置することといたしました。

本日は、久慈川の現状と課題と当面の進め方についてをお示しいたします。

皆様には、貴重なお時間を頂戴いたしますが、本日はどうぞよろしく願いいたします。

○常陸河川国道事務所 副所長

まことに申しわけございませんが、カメラ撮りにつきましてはここまでとさせていただきますので、ご協力のほど、お願いいたします。

(カメラ退室)

○常陸河川国道事務所 副所長

それでは、議事を進めたいと思います。

議事次第に沿って進めさせていただきます。

4. 久慈川の現状と課題

○常陸河川国道事務所 副所長

議事次第4と5、久慈川の現状と課題について、当面の進め方についてご説明します。

○常陸河川国道事務所 調査第一課長

皆様にお配りしております資料－２久慈川の現状と課題の資料を用いまして、ご説明いたします。

資料－２を１枚めくっていただきまして、１ページ目でございます。

流域の諸元、降雨・地形特性等ということで、左の図にございますように、久慈川は福島県、茨城県、栃木県の３県の境界に位置する八溝山を源に発して、奥久慈溪谷を経て、下流部の氾濫原において山田川、里川をあわせて太平洋に注ぐ一級河川となっております。幹川の流路延長は約124キロメートル、流域面積につきましては1,490平方キロメートルでございます。

地形の特性といたしましては、流域の約80％は八溝山地と阿武隈山地による山地・丘陵地が占めておりまして、約20％が台地・低地の平野部となっております。

地質の特性といたしましては、阿武隈山地のほうは、火山活動で変成岩となった地質でして、左側の八溝山地のほうは、泥や砂が堆積した砂礫岩が多くあります。中央に棚倉破砕帯という日本海から太平洋に伸びる破砕帯がございまして、この破砕帯に沿って山田川、里川が流れています。

右の図、降雨の特性でございますが、流域の年平均降水量は約1,300ミリメートルとなっております。全国平均である1,700ミリメートルと比べて少なくなっております。

降雨の量に関しましては、梅雨時期から台風時期に多く、6月から9月の4ヶ月で年降水量の約50％を占めております。

２ページ目でございます。

氾濫域の概要ということで、久慈川の下流部には、中核都市である常陸太田市、北関東屈指の工業地帯と国際貿易港を有する日立市、日本で初めて原子力発電所に灯がともされた東海村が位置しております。

下の図は、想定最大規模降雨による洪水で氾濫が想定される区域を示しているものになりますが、下の那珂台地と上の阿武隈山地の丘陵地の間に形成されている沖積平野の中で氾濫が想定されておりまして、流域の社会基盤を支える重要な地域で浸水に対して大きな被害が懸念されております。

続きまして、３ページでございます。

自然環境の概要について、左下の図でございますが、河川の区分ということで、平成20年に策定した河川整備基本方針では、上流部・中流部・下流部に河川を区分しております。

て、このうち、直轄区間は下流部でございます。河川整備計画では、それをさらに3つに分けて、その3つの状況を右下の写真で示しているところでございます。

まず、直轄区間の最上流部、辰ノ口地先から門部地先までの区間においては、礫河原を中心とした河川となっております。瀬と淵が存在し、礫河原では、カワラハハコ等の植物が生息しています。

その下流の門部地先から亀下地先までの区間、里川、山田川においては、粒径が小さな砂礫砂州の瀬と淵が連続しており、アユ等の生息場となっております。また水際部では湿性植物のタコノアシが生育しております。

最後、亀下地先から河口までの区間においては汽水域となっており、汽水域を好む生物が多く生息している環境となっております。

続きまして、4ページでございます。

久慈川の河川空間の利用の概要について、中上流部では、恵まれた自然環境を背景に、釣りやイベント等に多くの方が訪れているところがございます。

また、下流部では、サイクリングロードやグラウンド、親水公園が整備されておりました。スポーツやレクリエーション、地域の憩いの場として、多目的に利用されております。

左上の図でございますが、河川利用実態調査によりますと、散策を楽しむ方が多く、堤防や高水敷の利用が多くなっております。また、利用者も増えております。

続きまして、5ページでございます。

久慈川の水環境（水質）の概要について、直轄区間である久慈川・山田川・里川の水環境基準の類型指定は、すべてA類型となっております。現状では全川で環境基準を満足しております。水質は良好となっております。

右の図でございますが、赤の線の環境基準A類型の2ミリグラム／リットルに対して、現況の基準点での水質はすべて赤の線を下回っており、良好な水質が維持されている状況でございます。

続きまして、6ページでございます。

久慈川流域の史跡・名勝・天然記念物について、久慈川の流域において、多くの史跡や天然記念物が点在しております。上流部では、三大名瀑の一つである袋田の滝、下流部の常陸太田市においては、水戸光圀の隠居所である西山荘等がございます。

続きまして7ページ以降は、久慈川における主な洪水とこれまでの治水対策をまとめさ

せていただいております。

久慈川における治水対策でございますが、大正9年10月の大洪水を契機に、久慈川を直轄区間に編入いたしまして、昭和13年に久慈川改修計画を策定したのが始まりでございます。昭和22年9月のカスリーン台風を契機に、昭和28年に久慈川改修改訂計画を策定いたしまして、直轄区間の中流部の改修に着手しております。

また、昭和36年6月の洪水を契機に、昭和38年に久慈川改修計画を策定しております。

さらに、昭和41年には久慈川水系工事実施基本計画を策定いたしまして、既往の出水状況と流域内の開発状況を鑑みまして、治水安全度を100分の1に計画いたしました。

平成20年3月に久慈川水系河川整備基本方針を策定いたしまして、今回議論していただく久慈川水系河川整備計画につながっております。

右の写真でございますが、近年の大きな災害では、山方地点で戦後最大流量を記録した、昭和61年8月洪水が最も多くの被害が出ておまして、このときの浸水被害は、床上浸水290戸、床下浸水465戸を記録しております。

8ページは、近年の主な治水対策についてまとめております。

昭和61年8月洪水で大きな被害が発生したことをうけまして、下流部の東海築堤を完成させました。また、堤防の決壊の被害のあった中流部の門部地区、また、直轄区間の上流のところでございますが、無堤部のために浸水被害のあった花房地区に堤防を整備いたしました。

また支川の山田川の最上流部になりますが、平成15年度から平成19年度にかけて、東連地地区において輪中堤の整備と宅地嵩上げを実施いたしました。現在は、上流の辰ノ口の築堤整備を実施しておまして、また、下流の里川との合流点のところ、流下能力が低くなっている堅磐地区において河道掘削を実施しております。

続きまして9ページでございます。

こちらは、平成20年に策定いたしました河川整備基本方針の概要を示しております。

基本方針におきましては、年超過確率100分の1、これは毎年1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が100分の1ということで、この洪水を安全に流下させることを最終的な目標としてございます。

また、基本方針の主な記載として、3つございますが、「沿川地域を洪水から防御するため、河道や沿川の状況等を踏まえ、水系全体としてバランスよく治水安全度を向上させる。」、「そのため、流域の豊かな自然環境、河川景観の保全等にも十分に配慮しながら、

堤防の新設・引堤・拡築、河道掘削、樹木伐開等により河積を増大させるとともに水衝部等には護岸等を整備する。」「また、治水対策を早期かつ効率的に進めるために連続した堤防による洪水防御だけでなく、輪中堤や宅地の嵩上げ、二線堤等の対策を検討の上、実施する。」と記載されております。

河川整備基本方針における計画高水流量でございますが、上流の山方地点においては4,000トンとなっております。支川からの流入量を合わせた山田川との合流点の額田では4,900トン、榊橋では6,000トンとなっております。河口まで同流量で流下させるような計画となっております。

また、河川整備基本方針に記載されている河道掘削等による河積確保の考え方でございますが、「河道の安定・維持、アユ・サケ等の多様な動植物が生息する良好な河川環境、河川景観等に配慮しながら計画的に実施する。」とされています。

また、河道内の樹木については、「樹木による阻害が洪水位に与える影響を十分に把握し、環境に配慮しつつ、伐開等の適正な管理を実施する。」とされています。水害防備林として残す樹木につきましては、その治水機能や、本来、久慈川の景観を形成している要素としての価値を考慮し、流水の阻害をきたさないよう、地域と協働した適切な管理を実施するとされています。

右側の図は、河川整備基本方針検討小委員会資料を抜粋しておりますが、たとえば、「洪水の流下に支障となるような水害防備林については伐開する。」、ただ、「洪水の流下に支障を与えないような水害防備林については、できる限り保全する。」という考え方が示されております。

また、河道掘削にあたっては、砂州やアユ等の産卵場の保全に配慮し、掘削高は平水位以上相当とし、むやみに河床を掘らないような形での掘削を行うという考え方が示されております。

これらを踏まえて、今回の河川整備計画を策定して参ります。

続きまして、10ページでございます。ここからは現状と課題を項目ごとに整理しております。

まず治水の現状と課題といたしまして、堤防の整備状況を示しております。

平成27年度末現在、堤防の完成延長は22.6キロメートル、全体の23%となっております。今後、整備が必要な堤防延長は、61.5キロメートル、全体の63%となっております。

下の図で、黒の線は、計画断面が確保されている堤防、赤の線は、幅や高さの不足等で

断面が不足している堤防、緑の線は、山が迫っていて、堤防の整備が不必要な区間を示しております。

これをみていただきますと、本川の上流部や里川の上流部におきましては、まだ堤防未整備区間が残っておりますし、それ以外の区間においても、堤防はおおむね完成しているのですが、高さまたは断面が不足している区間が多い状況となっております。

続きまして11ページでございます。

こちらも治水の現状の課題ということで、河道掘削の状況を示しております。

現在、河道掘削を事業中である堅磐地区は、支川の里川が合流する地点でございますが、川幅が狭く、下流部の中では最も流下能力が不足しております。

この地区においては、サギの営巣地でもあることから、それが極力保全されるように、メダケ等の樹木群が成立する州を中州として残して、高水敷を100メートル幅で、平水位程度の高さで平坦に掘削しており、図ではオレンジ色で示した、保全する樹木の隣で、堅磐の河道掘削を実施しております。平坦に掘削しておりますので、中小出水が起きますと、平坦面に凹凸が形成されまして、そこで水たまりができて、湿性環境を創造する、環境に配慮した掘削となっております。

改修の効果を図で示させていただいておりますが、昨年、平成27年7月台風11号では、この地区において、2年に1回程度の洪水が発生いたしました。このときは、河道掘削を実施したところに水が流れた後、凹凸が形成されて水面が残りました。その結果、掘った直後は植生は無かったのですが、残った水面に湿性植物が繁茂いたしまして、重要種であるタコノアシが生育し、そこに住む生き物を目当てに、サギ・カモ・ハマシギ等の鳥類の飛来を確認しております。

また治水の効果といたしましては、このときはあまり大きな洪水ではなく、限定的な効果でございましたが、約20～30センチメートルの水位低減効果も得られております。

課題といたしまして、引き続き、治水面や環境面の整備効果をモニタリングしながら、得られた知見をもとに洪水を安全に流下させ、良好な湿性環境を創造する河道掘削を進める必要があると考えております。

続きまして12ページでございます。

治水の現状と課題ということで、減災・危機管理対策について示しております。

皆様ご承知のとおり、国土交通省では、平成27年9月の関東・東北豪雨を踏まえまして、水防災意識社会再構築ビジョンを策定いたしました。

久慈川・那珂川におきましても、今後5年間で重点的に水防災意識社会の再構築をする取り組みを行うこととしておりまして、減災のための目標を関係機関で協議いたしまして、ハード・ソフト対策を一体的に推進するために、今年の6月に河川管理者・県・市町村からなる減災対策協議会を設置させていただきました。

国におきましては、今後5年間で洪水を安全に流すためのハード対策として、浸透に対する安全性を確保する対策や、危機管理型ハード対策として、決壊までの時間を少しでも引き延ばすよう、堤防構造を工夫する対策等を実施する予定でございます。

今後、関係機関が協働しまして、住民が自らリスクを察知して主体的に避難できるよう、より実効性のある住民目線のソフト対策へ転換し、重点的に実施するため、議論を進めていくところでございます。

続きまして13ページでございます。利水の現状と課題をまとめております。

久慈川におきましては、農業用水をはじめとして、水道用水、工業用水等、大量に水利用が行われているところでございます。

一方で近年渇水傾向が頻発しており、平成以降でも11回渇水になっておりまして、特に春先においては、農業用水等の取水量も多く、下流部では、塩水が遡上してしまう現象が見られています。

このため、水道用水を取水する日立市水道では、渇水時に塩水遡上による取水停止を避けるため、土堰堤の設置を行っております。こういった対応が必要な状況であることを利水の課題としております。

14ページにまいります。

14ページからは河川環境の現状と課題ということで、まず、自然環境（瀬・淵の保全・礫河原の保全）をまとめております。

まず、瀬・淵の保全に関して、久慈川は全国有数の天然アユの遡上河川であり、現状でも良好な瀬・淵が維持されており、アユ・サケの産卵場も広い範囲で確認されています。

河川別のアユの漁獲量では、平成18年度時点では、久慈川は那珂川に次いで2位となっています。また、久慈川の全川の中で、濃い青で示したのが淵、水色で示したのが早瀬ということで、全川にわたってアユが好むような環境があります。産卵場についても、全川にわたって存在するため、河川整備にあたっては、アユ・サケの産卵・生育に影響を与えないよう、瀬や淵の保全に配慮する必要があると考えております。

続きまして、礫河原の保全に関しては、平成12年当時においては礫河原であったところ

に、植生が徐々に侵入してきているという現状がございます。

特に礫河原に侵入する代表的な外来種であるシナダレスズメガヤ群落は、平成19年まではほとんど見られなかったのですが、平成24年の調査においては、面積が急増しており、今後の増加が懸念されているところでございます。

続きまして15ページでございます。

こちらにも、河川環境の現状と課題のうち、自然環境の中の湿性環境の保全、また、竹林の管理ということをもとめております。

まず、湿性植物の保全に関しては、久慈川の植物の中では、湿性環境に依存する植物の確認種数が減少しているという現状がございます。

これに対して、湿性植物の生息場が創出されることを期待して、湿地環境等の水辺環境の再生に配慮する必要があると考えております。

また竹林の管理に関しては、久慈川の竹林は、もともと水害防備保安林として整備された歴史をもっておりまして、久慈川を代表する景観となっております。

近年、組合による管理や利用が減少したため、竹林の範囲が拡大してきておりまして、竹林の拡大を防ぐために対策も実施しているところでございます。

右の絵を見ていただきますと、竹林の範囲の拡大ということで、平成14年度、赤で示した竹林の面積が、平成24年度、10年たちますと拡大しているという現状でございます。

このため、河川整備にあたっては、竹林が水害防備保安林として整備された歴史的背景や、久慈川を代表する景観であることに配慮しながら、対策をしていくということを課題としております。

続きまして、河川環境の現状と課題のうち河川の利用・地域の連携をもとめております。

先ほど申し上げましたとおり、直轄区間の下流部におきましては広い高水敷にグラウンドや親水公園があり、堤防ではサイクリングロードとして利用されております。また、スポーツやレクリエーション、憩いの場として、地域の人々に広く利用されているという現状がございます。

一方で、久慈川は不法投棄による粗大ゴミが多く確認されておりまして、河川利用上の課題ともなっております。現状では、不法投棄に対して、注意看板の設置等により対処しているところでございます。

また、地域連携による維持管理としては、久慈川・那珂川クリーン作戦として、毎年、久慈川・那珂川沿川市町村と一体となって、沿川住民、河川利用者、各種ボランティア団

体等の清掃活動をとおして、河川の環境美化、愛護意識ならびに水質保全に対する一層の意識向上を目指しています。

東海村にあります「東海水辺プラザ」の整備においては、東海村との「かわまちづくり」により、河川空間とまち空間との融合が図られており、川を拠点とした広域的な地域連携の効果が発揮されているところでございます。

また、河川協力団体の活動といたしまして、現在、河川協力団体に指定されている「茨城生物の会」により、郷土茨城の生物の調査研究、生物研究者の交流、自然観察会等をとおして、自然への関心・理解を深めていただくような活動をおこなっていただいているところでございます。

17ページでございます。

今後取り組むべき課題 気候変動でございます。

年最大日降水量を100年後と今で比較すると、関東地方では1.1倍に増加するとされており、降水量の変化にともないまして、治水安全度を今の計画で100分の1としているものが、50分の1まで低下してしまうことが予想されております。

気候変動等の影響で、全国各地で水災害が激化・頻発化しているとともに、都市における地下空間の拡大等の都市構造の変化、低平地への人口・資産集積化等が進んでいることから、全国各地で大規模災害が発生する可能性が高まっております。

現状と課題については、以上でございます。

5. 当面の進め方について

○常陸河川国道事務所 調査第一課長

続きまして、「資料3 当面の進め方」についてご説明いたします。

今回、行政連絡会議を開催させていただきましたが、その後、平成28年7月27日、来週でございますが、久慈川河川整備計画有識者会議を開催させていただきたいと考えております。

この趣旨としましては、国土交通省関東地方整備局長が久慈川水系河川整備計画（案）を策定するにあたり、河川法の趣旨に基づきまして、学識経験を有する者の意見を聞く場として設置させていただきます。

日時は、7月27日、場所は、茨城県薬師寺会館3階大会議室でございます。内容につき

ましては、本日お話をさせていただきました久慈川の現状と課題でございます。また、委員につきましては裏面でございますとおり、8名の委員の皆様にご議論いただく予定です。

説明は以上でございます。

○常陸河川国道事務所 副所長

ただいま、資料－2久慈川の現状と課題、資料－3当面の進め方をご説明させていただきましたが、これにつきまして、茨城県さん、何かございますでしょうか。

○茨城県 河川課長

では私からお願いをさせていただきたいと思います。

最初に久慈川の治水対策につきましては、昭和61年の大水害を契機としまして、県内におきまして、これまで堤防の整備等を着実に進めていただきましてまことにありがとうございます。

まず現状と課題につきまして、4点ほどお願いといたしますか、ご意見を述べさせていただきます。

1点目につきましては、治水対策でございます。

久慈川につきましては震災による広域沈下の影響もございまして、整備率が23%と大変低い状況となっております。治水対策の推進につきましては、県民の安心・安全を確保するうえで大変重要でございます。このため、事業が進められております常陸太田市堅磐地区の河道掘削や常陸大宮市辰ノ口地区の堤防整備等につきまして、引き続き、着実に進めていただき、早期完成を図っていただくようお願いいたします。

2点目につきましては、津波・高潮対策でございます。

東日本大震災がおきまして、茨城県としましては、海岸および県北部の二級河川の河口部等におきまして、津波・高潮対策護岸の嵩上げ等の事業を進めているところでございます。

久慈川におきましても、先の震災の際には津波の遡上が確認されておりますので、津波・高潮対策につきまして、今回の河川整備計画に盛り込んでいただくようお願いいたします。

3点目につきましては、施設の維持管理でございます。

公共土木施設におきましては、高度成長期時代に大量に生成されました施設の老朽化が

進み、今後、維持管理・更新のピークを迎えることが想定されております。各施設の持つ機能が十分発揮できるよう、適切に維持管理・更新を行い、その安全を確保することは大変重要でございます。

河川管理施設につきましても施設の機能確保と併せ、維持管理等のトータルコストの縮減・平準化を図れるよう、計画的な維持管理について実施いただきますようお願いいたします。

4点目といたしまして、気候変動への対応でございます。

久慈川は山田川合流点下流部に市街地が広がっております。特に、里川合流点下流の常陸太田市、日立市に人口が集中していることから、氾濫した場合、きわめて甚大な被害となります。計画的な河川整備を進めるためにも、一刻も早い整備計画の策定をお願いいたします。

また当面の進め方について、1点お願いしたいと思います。

整備計画をつくるにあたりましては、地元の市町村の意見が大変重要でございます。地元の市町村の意見を聞く機会につきましては、市町村への十分な説明を聞く時間をより一層確保していただきますようお願いいたします。

私からは以上でございます。

○常陸河川国道事務所 副所長

ありがとうございました。

続きまして、日立市さん、なにかご発言等ございますでしょうか。

○日立市 副市長

特に意見ということではございませんが、私ども日立市は久慈川の終結部にございまして、太平洋に注ぐ河口部であるということで、現況を話しますと、今、地元の住民の方の要望にこたえていただきまして、常磐線の下のところ、菜の花畑をつくらせていただきまして、あらためてお礼を申し上げておきたいと思っております。春になりますと、そこに菜の花が非常に見事に咲いておりまして、常磐線で東京方面から来ると、新しい日立のメルクマールといいますか、川を渡って菜の花を見て、日立に入ったなということで、非常に注目されているところでございます。

また、最近、河口付近でジェットスキー等も行われておりまして、久慈川がレクリエ

ーションに十分活用されているのかなといったことも考えております。

ただ、こういった住民に親しまれることの根幹は、治水事業によりまして、安全が確保されるということが最低限の条件だと思っておりますので、現在、日立市内ではほとんどが暫定堤でございますので、引き続き、計画的に整備を推進していただきたいというのが1つの要望でございます。

また、資料の中にもございましたが、大震災以降、毎年のように取水口に塩分が入ってくるということで、私どもの市の職員自らが土堰堤を築いているということで、結構な労力を使っております。なかなか対策は難しいと思うのですが、これから学識経験者の方等との会議があるということですので、なにか恒久的な対策があればということで、研究を進めていただければありがたいと思います。

以上でございます。

○常陸河川国道事務所 副所長

ありがとうございました。

続きまして常陸太田市さん、お願いいたします。

○常陸太田市 副市長

常陸太田市でございます。ありがとうございます。

今回いただいた資料の2ページに、氾濫域の概要ということで、我が常陸太田市にとりましては大変ショッキングなデータが出ております。鯨が丘というところに元中心地があったのですが、里川のエリアのほうに中心市街地が移行しつつあります。そのような中で、このようなマップが出てきてしまうと、我々市民としては、どうなのかなということを考えてしまいます。

それから、細かいところから大雑把といっでは何ですが、5～10メートルと非常に高めの浸水域になっているということで、我々も今後、ハザードマップの見直し等をやっているかなくてはいけないと思っておりますが、今回、新たな整備計画を立てられる際には、この辺は非常に人口が集中しておるところを十分鑑みていただいて、より効果のある堤防等の建設をお願いできたらと思っております。

それから、常陸太田市は支流が結構たくさん流れておりまして、特に山田川につきましては、雨が降ると側溝が増水になってしまうところが何カ所かございます。そのようなと

ころもこれから情報提供してまいりたいと思いますので、ぜひご検討をお願いできればと思います。

15ページのところですが、竹林が久慈川の氾濫を防いでいるということで、多分、計画的に、もしくは歴史的にこういうものができてきたのだらうと思います。景観上は仕方がないかなとももちろん思うのですが、これがほかのところに結構侵食してきているというか、かなり多めになってきているということで、周辺に住んでいる住民からは、環境上良くないかな、見た目も増えすぎかなという要望が出てきております。全部切っ飛ばしてしまえという乱暴なことをいうつもりはもちろんございませんが、適切な管理をお願いできればうれしいかなと思います。

以上2点でございます。どうぞよろしく願いいたします。

○常陸河川国道事務所 副所長

ありがとうございました。

続きまして、常陸大宮市さん、何かございますでしょうか。

○常陸大宮市 経済建設部次長

常陸大宮市でございます。

今、久慈川の現状と課題ということでご説明をいただいたわけですが、今、常陸太田市さんからありましたように、常陸大宮市でも防備林としての竹林が久慈川にかなり点在してございます。今ありましたように、昔は管理組合等で管理できていたものが、竹の利用が少なくなってきたということで、竹林がかなり点在してありますが、氾濫しているといったところでございますので、ぜひとも竹林の適正な整備をお願いしたいと思っております。

また、先ほど浸水被害の説明がありましたが、常陸大宮市につきましては、堤防の未整備の箇所がまだありますものですから、その整備促進をお願いしたいと思います。

また、ありましたように、地元の意見等も十分反映しながら行っていただきたいと考えております。

また、久慈川におきましては、アユ、サケの産卵の箇所が常陸大宮市でも何カ所か見受けられます。そういう自然環境にも配慮して、その産卵やアユ等を観光資源として生かせるような整備をお願いしたいと思います。

以上でございます。

○常陸河川国道事務所 副所長

ありがとうございました。

続きまして、那珂市さん、何かございますでしょうか。

○那珂市 建設部長

那珂市です。お世話になります。

10ページの治水の現状と課題の図面にありますように、那珂市のほとんどが断面不足と山付きの状況でございます。そういった中で、計画に基づいて、そういった堤防の早急な整備をお願いしたいというのと、10ページの絵にありますように、せっかく堤防があるにもかかわらず、流れがちょうど堤防にクロスしている部分があるので、局部的な河道掘削と、堤防に沿った流れにさせていただければありがたいかなと思います。

以上です。

○常陸河川国道事務所 副所長

ありがとうございました。

続きまして、東海村さん、何かございますでしょうか

○東海村 副村長

東海村でございます

東海村からは2点ほど述べさせていただきます。

まず1点目ですが、先ほど、県の河川課長から話がありましたが、やはり津波・高潮対策について、何らかの形で言及していただければと思っております。

それから資料の4ページのが河川空間の利用の概要というところですが、先ほど日立市さんの方からも話がありましたが、河口部でジェットスキーやマリンスポーツ等も行われておりますので、そういった部分についても一言述べておいても良いのかなと考えてございます。

以上でございます。

○常陸河川国道事務所 副所長

ありがとうございました。

それでは、常陸河川国道事務所より、ただいまいただきましたご発言に対しまして、発言をさせていただきたいと思います。

○常陸河川国道事務所 事務所長

常陸河川国道の八尋でございます。

本日は、大変お忙しい中、わざわざ事務所までお越しいただきまして、大変ありがとうございます。

また、平素より、当事務所で進めております河川事業に多大なるご理解、ご協力を賜っておりますことを、この場をおかりいたしまして、厚く御礼申し上げます。

さて、ただいま皆様より大変貴重なご意見等を賜ったところでございます。さまざまな観点から多様なご意見をいただいたわけですが、いくつか論点を整理しながら、事務所の考え方、現状認識等を述べさせていただきたいと思います。

まず、治水対策ということで、具体の堤防整備あるいは河道掘削といったことについて、すべての構成員の方から何らかの形でご発言いただいております。

治水対策につきましても、これまで、洪水に対しましては、氾濫域の資産の集積状況、土地の利用状況等を勘案しながら、堤防整備、河道掘削等を段階的かつ着実に実施してまいりました。

先ほど、完成堤の状況ということで説明させていただきましたが、県さんからもご発言がありましたとおり、東日本大震災により広域地盤沈下が生じた結果により、こういう数字になったところでございますが、震災前は、堤防整備率という指標にいたしますと、8割近いところまで進んでおったところでございます。

こういった過去の経緯や東日本大震災後この状況等を勘案しながら、河川整備計画の作成にあたってまいりたいと思いますが、その際には、現在実施中の事業を考慮しつつ、事業の位置づけを検討していくとともに、位置づけた事業が早期に実施できるよう努めてまいりたいと考えているところでございます。

また、地震・津波・高潮対策につきまして、県さん、東海村さんからご発言ございました。これにつきましては、河川管理施設の被災等によって甚大な被害が生じないよう、必要な対策を検討してまいりたいと考えてございます。

また、利水の面、上水の取水ということで、日立市さんからご発言ございました。近年、久慈川は毎年のように渇水傾向にあり、今年も日立市さんのほうで土堰堤を設置していただいているところでございます。一時期、小規模な出水がありまして、流況が若干回復した場面もあったのですが、今週に入りまして、また厳しい状況になってまいりました。引き続き、土堰堤の設置あるいは補修がなされるかと考えてございますが、恒久的な対策がないか、研究を、ということでございました。全国的に見ますと、表面取水によって、取水停止の期間を少しでも短縮するといったことに取り組まれているところもございまして、そういった事例も参考にしながら、日立市さんの負担の軽減ができるというか、より適切な水の利用が図られるような形がとれないかということについて、日立市さんとともにご議論を深めていければと考えているところでございます。

続きまして、県さんから老朽化対策に関するご発言がございました。久慈川では、設置後40年を経過している水門・樋管等が約7割を占めているという現状にございます。今後、これらの河川管理施設は、引き続き、健全な状態で、機能を適切に維持していけるよう対処していかなければならないと認識しているところでございます。そのためには、改築更新時期の平準化を図りながら、効率的な維持管理を実施していく必要があると考えてございますので、こういった観点も河川整備計画に盛り込んでいければということで考えてございます。

また、常陸太田市さん、常陸大宮市さんから竹林の伐採の話がございました。この対応につきましては、過去、樹林化が進行している箇所では、洪水の流下の阻害となっている樹木の伐採等を行ってきております。今後も、ご発言がございました景観面、環境面といったところにも配慮しつつ、適切な維持管理を実施していきたいと考えてございます。

続きまして、自然環境の保全、水辺空間の利用といった観点から、日立市さん、常陸大宮市さん、東海村さんからご発言がございました。この点に関しましては、これまでの流域の方々と久慈川の関わりを考慮しつつ、観光面といったご指摘がございました。そういったところにも配慮しながら、良好な河川景観や水質の保全、安全で秩序ある河川利用が図られるように対応してまいりたいと考えてございます。

また、県さんから、気候変動、地元への丁寧な説明というご意見を頂き、後者につきましては、常陸大宮市さんからもご指摘をいただいたところでございます。危機管理のハード対策といったものも勘案しながら、関係者との議論を深めながら、早期の整備計画策定に努めてまいりたいと思っております。

いずれにいたしましても、今後とも、このような場を含め、相互の立場を理解しつつ具体的な内容について議論を深めていき、その上で、河川整備計画の成案を得ていきたいと考えてございますので、引き続き、ご対応のほど、よろしくお願ひしたいと思ひます。

私からは以上でございます。ありがとうございました。

○常陸河川国道事務所 副所長

常陸河川国道事務所の方からは以上でございますが、このほか追加で皆様からなにかあれば、いただきたいと思ひますが、いかがでしょうか。

(「なし」の声あり)

6. 閉会

○常陸河川国道事務所 副所長

それでは、これをもちまして久慈川河川整備計画行政連絡会議を閉会させていただきます。

本日は、貴重なご意見をいただき、まことにありがとうございました。

今後もしよろしくお願ひいたします

— 了 —